

国立大学図書館協会地区協会助成事業 実施報告書

地区名	近畿地区（主担当大学：神戸大学）
事業名	未来の図書館：図書館の新たなミッションⅡ 「大学図書館員のための「研究戦略・研究評価」セミナー」
事業目的・趣旨	<p>今日の研究大学では、研究戦略立案が重要な課題となり、「研究開発内容について一定の理解を有しつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材」としてリサーチ・アドミニストレーター（University Research Administrator：URA）の養成・導入が進むなど、研究支援・研究戦略に関わる新たな環境が生まれている。それに伴って大学内でも論文データや引用情報を用いた研究分析手法へのニーズも強まっている。</p> <p>引用文献データベースや研究評価ツールの導入・提供は従来から大学図書館の守備範囲ではあった。今後はさらにこうしたデータベースを用いた論文評価・研究分析についても知識を深め、学内関係者への情報提供と支援につなげていくことで、研究支援の一助となるだろう。</p> <p>このセミナーは、研究評価に関心をもつ図書館・図書館員が、大学での研究推進・支援の実際、引用文献データベースの研究分析への活用に関する最近の動向を知り、自機関での研究支援力を高めるためのものとして企画した。なお神戸大学附属図書館主催「オープンアクセスウィーク・ワークショップ」（平成26年10月22日開催）と合わせ、シリーズイベント「未来の図書館：図書館の新たなミッションⅡ」として設定した。</p>
実施内容	<p>日時：平成26年12月15日（月） 13:00～17:00</p> <p>場所：神戸大学附属図書館フロンティア館プレゼンテーションホール</p> <p>内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「研究成果の定量化という図書館の新たな機能－為せば成る、為さねば成らぬ何事も？」 独立行政法人物質・材料研究機構図書館 谷藤幹子氏 ・「リサーチ・アドミニストレーター（URA）の仕事とは？」 神戸大学学術研究推進本部学術戦略企画室 URA 寺本時靖氏 京都大学学術研究支援室 URA 天野絵里子氏 ・「研究分析評価ツールの基礎知識」 トムソン・ロイター 甲斐眞佐美氏 エルゼビア・ジャパン 柿田佳子氏

	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション 「研究支援と図書館・図書館員 ～図書館の内と外から～」 谷藤幹子氏 寺本時靖氏 天野絵里子氏 モデレータ：神戸大学附属図書館事務部長 内島秀樹
<p>事業の成果 (アンケート調査 結果、事業への意 見・感想等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○参加者数：18 機関 54 名 内訳：学外 24 名（国立 10 大学 14 名、私立 6 大学 9 名、 その他研究機関 1 名）学内 30 名（図書館職員 28 名、事務職員 2 名） ○アンケートから（回答数 39、回収率 72%） ■ 3 名の講師による講演について「大変興味深かった」が 9 割近く を占め、報告・パネルディスカッションとも好評であった。 ■ 参加者の感想から <ul style="list-style-type: none"> ・ URA の仕事についてイメージがわいた。 ・ 日本語論文及び人文社会系論文の評価・研究支援体制構築に図書館 がどこまで貢献できるのか、興味深いコメントが多く勉強になった。 ・ 研究評価の手法や最近の動向、URA について話を伺え参考になった。 ・ 今後の所属機関の方向性を考えるうえで参考になった。 ・ URA と図書館員の協働は今後一層重要になると思い参加した。連携 事例など可能性をもっと知りたい。 ○セミナーHP http://lib.kobe-u.ac.jp/www/html/events/researchseminar.html ○当日の twitter まとめ http://togetter.com/li/757926
<p>経費</p>	<p>78,740 円</p> <p>(講師謝金：30,000 円、講師交通費：40,540 円、 講師昼食費：8,200 円)</p>